

2016 年度第 4 回例会

ワークショップ「これからの京都支部を見つめて」

日 時 2017 年 3 月 13 日（月曜）13:30～16:00
会 場 ウイングス京都
出 席 14 名

2016 年度最後の例会は役員メンバーが変わる新しい年度に向けて支部の活動に対する会員の日頃の考えをワークショップという形を借りて忌憚なく出し合い、新しい歩みへの参考になるものが共有できればとの思いからの企画であった。

提案された久保支部長は生憎くの風邪で欠席だったが、高橋副支部長の「支部長の思いは常々皆の念頭にある事でもあり、今日のこの機会を十二分に活かして」との挨拶に続いて中川慶子会員の司会で作業に入った。説明を待つ間ももどかしくカードに書き込まれていく。2つのグループに分かれセッション1. 2. 3と順次進めたのち、両グループの結果を持ち寄って成果を確認し合った。

このワークショップでは結論は出なくとも、会員同士、新年度への活動に期待を膨らませる良き機会となった。ワークショップ方式が初めての会員からは、思ったことが発言でき楽しく話合いの場が持てたと好評であった。

セッション1（JAUW 京都支部の活動について）

- ◎ 支部に対するイメージ
 - ・いろいろの人や良き先輩、ロールモデルともいえる人との出会いの場である。
 - ・一人一人がしっかりした見識を持っている。
 - ・会員同士の親交が深い。
 - ・かたまりすぎ。（仲良し会ではない）。
- ◎ 愉しかったこと、達成感や充実感を持てた活動
 - ・イベントをした。（国際会議や全国総会、読書会、見学会）への参加。
 - ・皆で一緒になって活動したという連帯感。

セッション2（会の活性化について）

- ◎ 例会の持ち方の検討→全員が参加するような企画と運営を。
 1. 例会では全員、特に新会員やビジターに発言してもらう。
 2. テーマを若い人に関心のあるテーマや社会的に関心のあるテーマを選ぶ。
 3. 年6回例会以外に、会員の交流を深め、また会員募集を促進するために、読書

会や健康志向のダンスやなどの企画もどうか。

◎ 会員の増強

1. 新しい会員を増やす計画を第一にする。
2. 若い人は現役で多忙、中年の子育てから離れた人をターゲットに。
3. 一人一人が勧誘への努力を。
4. 会費が高いので支部だけの活動に参加する賛助会員制を取り入れる。
5. 例会の座席の取り方を工夫し新しい会員が疎外感を持たないようにする。
6. 奨学生や留学生と関係が継続する様に例会案内やイベントを考える。
7. 広報活動の活発化、会の存在のPR。

セッション3（本部との関係）

◎ 本部との協働意識を持つ。

1. 総会や国際会議、セミナーへの参加。
2. 例会時に本部からの書類やGWIニュースを紹介する。
3. 全国総会では事務的な報告を出来るだけ簡素化し全国の会員交流の場を多くする。本部の取り組むテーマをもう少し考慮してもよいのではないか。
4. 東京まではなかなか行けないので、関西ブロックで連携して、勉強会を実施するなどして研究・交流を深めてはどうか。数年前に青木怜子先生や鷺見会長に来ていただき関西ブロックで拡大例会をした。
5. 支部間のペアリングを考える。
6. 数種類の奨学制度は若い女性研究者に歯有益で今後も継続支援する。

例会終了後役員会開催以下話し合う

1. 2017年度支部総会（4月15日）について
プログラムと役割の確認。準備の確認。
2. 2016年度活動報告冊子の報告、目下作成中で総会時に配布する。